



# 果樹の 主要害虫防除に!

主要害虫の交信攪乱剤

## コンフューザー<sup>®</sup>N

オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤 農林水産省登録 第22959号【信越化学工業(株)】



コンフューザーN取付け例

有効成分：(Z)-8-ドデセニル=アセタート……………36.2%  
(Z)-11-テトラデセニル=アセタート……………23.9%  
(Z)-9-テトラデセニル=アセタート……………4.8%  
10-メチル-ドデシル=アセタート……………0.64%

(Z)-9-ドデセニル=アセタート……………1.2%  
11-ドデセニル=アセタート……………0.65%  
(Z)-11-テトラデセン-1-オール……………0.28%  
(Z)-13-イコセン-10-オン……………21.3%

- 人畜毒性：普通物\* ※毒物及び劇物に該当しないものを指している通称
- 包装形態：50本入りアルミ袋

®:信越化学工業(株)の登録商標

## ◎特長

- 1.性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害し、害虫の発生を抑制することを目的としています(直接の殺虫作用はありません)。
- 2.殺虫剤への感受性が低下した害虫にも有効です。
- 3.ハマキムシ類の成分をできるだけ天然組成に近づけることにより、効果が安定しています。
- 4.天敵に対する影響は非常に少なく、人畜毒性もほとんどありません。
- 5.本剤の有効成分は微生物等により容易に分解されるため、環境にやさしいです。
- 6.ディスペンサーがツインタイプのため、枝等に簡単に取り付けられます。
- 7.殺虫剤の散布回数の削減が期待できます。
- 8.作物への残留も心配なく、作業者に対しても安全です。

## ◎上手な使い方

### 1.設置時期

越冬世代成虫発生初期に設置してください。

### 2.処理量

通常の場合、本剤を10アール当たり150~200本とし、圃場の立地条件(傾斜)、周囲の状況や風向き等を考慮に入れて、8割程度を圃場全体にほぼ均等に設置してください。残りの2割程度を圃場の周辺部に処理すると効果的です。

### 3.処理位置

目通りの高さ(約150cm程度)になるべく圃場全体に均等になるように取り付けください。ただし、周辺部には高い位置に設置してください。また、樹高が不均一の場合もなるべく高い位置に設置してください。

### 4.取り付け方法

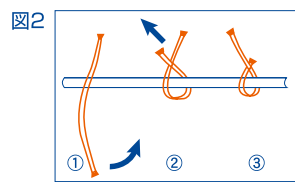
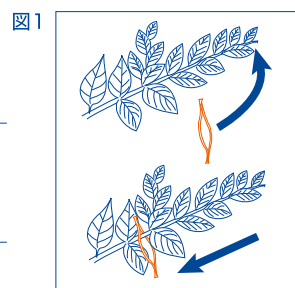
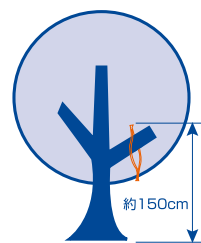
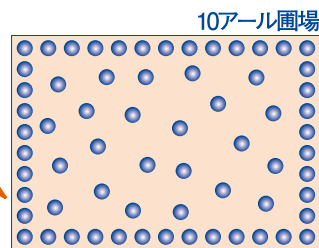
細い枝では輪にして、輪の中を通すか(図1)、少し太い枝ではそのまま巻き付けてから、一端を輪の中にくぐらせて固定してください(図2)。(強く引っ張り固定すると、端が切れるおそれがありますので注意してください。)

### 5.残効期間

害虫の種類、圃場面積、地形、気温、風等の条件により異なる場合がありますが、試験事例から4~5ヶ月の残効が期待できます。

### 6.放任園・庭木対策

圃場周辺に無防除園や無防除樹があるか注意してください。ある場合は、あらかじめ防除を徹底してください。また、周辺に無防除のバラ科果樹等がある場合にはフェロモン剤を設置してください。



## ◎コンフューザーNの登録内容

作物名	使用目的	適用害虫名	10アール当り使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	ナシヒメシクイ	50~200本(52g/200本製剤)	成虫発生初期から終期	ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する。
		モモシクイガ チャハマキ チャノコカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ リンゴモンハマキ	150~200本 (52g/200本製剤)		
すもも	スモモヒメシクイ	200本(52g/200本製剤)			

## ◎使用上の注意事項

- 本剤は、果樹類のモモシクイガ、ナシヒメシクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキおよびすもものスモモヒメシクイ各成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的としているので、これらの成虫発生初期から、比較的広範囲の地域で使用することが望ましいです。
- 本剤は樹木等に巻き付け、対象地帯に均一になるように設置してください。また、標準的な使用量は10アール当り、果樹類:150~200本およびすもも:200本ですが、立地条件や風向、傾斜等により効果がフルな場合があるので、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、特に周辺部に多めに設置することが望ましいです。
- 急傾斜地、風の強い地域等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では、使用しないでください。
- 本剤を150本未満で使用する場合、ナシヒメシクイ以外の対象害虫に十分な交尾阻害効果を持たないので注意してください。なお、ナシヒメシクイを対象に150本未満で使用する場合、交尾阻害による密度低下を維持するため、ナシヒメシクイに対し交尾阻害効果のあるフェロモン剤と組み合わせて使用することが望ましいです。
- 本剤は飛来した既交尾雌には効果がないので、特にスモモヒメシクイを対象とする場合には寄生樹種を移動する場合もあるため、発生源を確認して使用することが望ましいです。
- 製剤を直接ふれた手で収穫物を触ると臭いが移るおそれがあるので手を洗ってください。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると、有効成分が揮散するので、密封したまま冷暗所(5℃以下)に保管し、使用直前に開封して使いきってください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外に使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋は圃場等に放置せず適切に処理してください。

本資料は2016年8月現在の知見に基づいて作成されております。